

生活支援 拠点施設

など建設のために

社会福祉法人こぶしの会

チャリティー展示販売会



ソープさんの展示作品を掲げる「コミュニティワークこっから」利用者ら=16日、奈良市古市町

マッケンジー・ソープ&国際絵画展

24日からイオンモール大和郡山で

生活介護事業所「コミュニティワークこっから」(奈良市古市町、古木一夫施設長)などを運営し、障害者を支える「社会福祉法人こぶしの会」(藤井正紀理事長)が24日から、大和郡山市下三橋町のイオンモール大和郡山でチャリティー企画「マッケンジー・ソープ&国際絵画展」(奈良新聞社など後援)を開催する。

丸い大きな頭の子どもや動物などを温かみのあるタッチで描くソープさん(61)は英国出身の画家。発達障害のひとつであるアスペルシア(難読症)で世界的に活躍している。同法人のソープ展開催は平成23年に続いて2回目で、今回は計画中の生活支援拠点施設建設のために企画。収益をグループホームや相談支援センターの建設に役立てるのに加え、障害が重い人たちの「親じき後」の地域生活を支える仕組みの重要性を広く伝える機会として開催する。

最近、母親を亡くし、父親も入院中のため、短期入所施設から「こっから」へ通う女性(38)は「(新しいグループホームに入れたら)ゆっくりと落ち着いて過ごしたい」と話

した。同展は26日まで。午前10時から午後6時開場。無料。ソープさんの新作50点に加え、ダウン症の書家、金沢翔子さんの書や著名画家の作品など計約120点を展示販売。24日午後1時からソープさんによるギャラリートークとサイン会。問い合わせは同展実行委員会、電話0742(63)6765。

英画家マッケンジー・ソープさん東大寺見学

大仏から大きな感動



大仏殿を見学するソープさん=23日、奈良市雑司町の東大寺

夢持って人生変える

きょうから、イオンモール大和郡山で絵画展

国際的に活躍する英国出身の画家のマッケンジー・ソープさんが、自身のチャリティー絵画展に合わせて来日し、23日には奈良市雑司町の東大寺を訪れた。

チャリティー企画「マッケンジー・ソープ&国際絵画展」(奈良新聞社など後援)は、きょう24日から、大和郡山市下三橋町のイオンモール大和郡山で始まる。

ソープさんが同寺を訪れるのは、平成23年以来2度目。同寺職員の案内で大仏殿や南大門を見学した。大仏の台座近くに立つたソープさんは「とても力を

ギャラリートーク、サイン会も

感じる」と目を輝かせ、「前回よりも大きい感動を得た。大仏は心が豊かな気持ちを感じ出すためにあるのではないかと思う」と再訪の感想を述べた。また絵画展については「人は夢を持ち、その夢を達成し、人生を変えていくことができる。障害や困ったことがあっても必ずできることがある。絵画展でそのことを感じてほしい」と話した。同展は26日まで。観覧無料。午前10時から午後6時開場。きょう24日午後1時から、ソープさんによるギャラリートークとサイン会が行われる。